

私たちの町の遺跡

二本木発掘物語

■第4話「奈良時代の国府」

国府とは今の県庁のことで、奈良時代に国ごとに設置されました。熊本県が肥後国と呼ばれていたことはご存じですよ。しかし「肥後国の国府がどこにあったのか」まだ謎なのです。多くの研究者がこの謎に挑みました。古文書には旧飽田郡（飽田国府）と旧益城郡（益城国府）に国府があったと書かれています。国府が2ヶ所だとおかしいので、研究者は国府の場所が移ったと考えました。昭和30年代に「国府」という地名に注目した調査が行なわれ、古文書にはない「出水国府（託麻国府）」も想定されて「奈良時代には出水国府、平安時代に益城国府と飽田国府に移る」という説が定説となりました。

ここで二本木遺跡の登場です。平成11年の熊本朝日放送社屋建設の発掘調査で、奈良時代の大きな役所の跡がみつかりました。県内では例のない建物の規模、整然とした配置、貴重な遺物は、全国の国府調査事例と比べても遜色ありません。でも「ここが本当の奈良時代の肥後国府だ！」とは簡単には言えないのです。「定説出水国府」があります。発掘調査では、あったことより、なかったことを証明するのが難しいのです。「奈良時代の肥後国府」は、二本木遺跡の発掘成果をもとに、今後も議論していかなければなりません。

熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室 金田一精氏

みつけた建物あと
人がいる場所が柱穴だよ

